



12/10 上土幌の歴史、施策について発表  
上土幌学活動報告会

上高生が1年間学んだ上土幌学の集大成として「上土幌学活動報告会」を山村開発センターで行いました。上土幌学とは「地域を理解し将来にわたって地域社会に貢献し、持続可能な態度を育成」することを目的に、平成28年から上土幌高校の選択科目として始まった、町の自然や歴史、特産品などを体験的に学ぶ取り組みです。当日は今年度学んだことをまとめ、上土幌町の施策や、上土幌町の歴史について発表しました。

12/10 地域交通の充実に向けて  
客貨混載実証実験

日本郵便株式会社との客貨混載実証実験が行われました。郵便局の集荷車両の助手席を利用し、乗客の輸送サービスを行う実証実験です。当日は萩ヶ岡簡易郵便局のポストの集荷を行った後、事前に予約した近隣の方が助手席に乗り、上土幌クリニックへ移動しました。竹中町長は「地域の足の確保は重要な施策。法律などの壁はあるが実証実験をやったことで固定観念を変えることができるのでは」と話しました。



11/16 三菱自動車、上土幌自動車工業と  
災害時における支援協定締結

大きな災害が発生した際に電動車両等を町に提供することを取り決めた協定を、三菱自動車、上土幌自動車工業、上土幌町の三者で締結しました。災害時に電動車両を提供していただくことにより、大規模停電が発生した際などに、スマートフォン100台以上の同時充電が可能になるなど、災害時に大きな助けとなります。竹中町長は「近年大規模災害が多く発生している。町民のために使いたい」と話しました。



11/26 駐車場の白線整備  
道路工業・東日本経常建設地域貢献

11月12日に道路工業・東日本経常建設様がスポーツセンターと生きがいセンターの駐車場の線を引き直していただき、26日に町長から感謝状が贈呈されました。町長は「とてもきれいに整備していただき、駐車がしやすくなった。また、事故防止の観点からも重要なことだが、手が回っていなかった。今回実施していただき非常にありがたい」と感謝の言葉を述べました。

11/27 滑り台を安全に使えるように  
植村土建マット寄付

北海道が実施する道営草地整備事業を本町で行っている植村土建様が、地域貢献の一環として、認定こども園の滑り台の着地点にマットを設置していただきました。当日は河合副社長が来庁し教育長から感謝状が贈呈されました。植村土建様は一昨年からは3年連続でこども園の整備を支援していただいています。教育長は「子どもたちが安心安全に使えるようになる。非常にありがたい」と感謝の言葉を述べました。



地域を変えていく新しい力  
地域おこし協力隊活動報告

TITLE:町内外の皆様のために

記:観光誘客組織づくり推進員 平野 健太郎

地域おこし協力隊として5月に生まれ育った上土幌町に帰ってきて、あっという間に7か月が経ちました。慣れ親しんだ故郷に懐かしさを感じると共に、多くの新しいモノやコトに新鮮さを感じています。そのひとつである、道の駅かみしほろ。私は株式会社karchの一員として、道の駅で観光案内と施設管理を行っています。特に観光案内は全国からみえるお客様に対応するには町内だけではなく十勝管内、ひいては道内の知識が幅広く必要で、観光案内に使っているiPadには、今まで案内をしたスポットと他の道の駅の情報を全て登録してあります。また、かみしほろ電力の担当でもあります。受付や営業、管理、行政対応など、こちらが多岐に渡る業務です。道の駅で契約受付を行っていますので、気になる方は気軽にお越しください。他にも、最近何かと話題のSDGs(持続可能な開発目標)についても取り組みを進めていて、町内外の方にお伝えできるよう、パンフレットの作成や勉強会の準備を進めています。地元に戻ってきて、沢山の方に声を掛けていただき、ときにご協力いただき、本当に感謝しかありません。そんな皆様に少しでもお返しできるように、この町が好き気持ちを大切に、今までの経験を存分に活かし、活動していきたいと思っております。



12/1 1か月の成果を発表  
MY-MICHIプログラム成果報告

MY-MICHIプログラムの参加者が1か月間の成果を生涯学習センター視聴覚ホールで発表しました。MY-MICHIプログラムとは上土幌に1か月間参加者同士で共同生活を行いながら「学ぶ」「遊ぶ」「働く」を体験し新しい自分を見つけるプログラムです。当日は5名の参加者が1か月間上土幌に住みながら体験し、感じたことや、上土幌の観光資源などを生かした事業の提案などが行われました。



11・12月の  
まちのわだい

短歌

仔をつれてやがては別る鹿の目の何んとも優し澄みを見つめり  
 クラクシオン短かく告げていまし子が帰りてゆけり夕映の中  
 身の内を駆け抜けていく歳月よすこやかこそこの日々のあり  
 夜の街の多くの木は青光り見つつコロナの収束願う  
 青空の明るさけきのウォーキング光を浴びて気持ちの晴れし  
 調理器具揃えて臨む実習のあつという間に終りてゐたり  
 センターの迎えの車まつ朝に西の山より雪の吹きくる  
 今日も又わつかの床にモップがけ汚れしモップをきれいに洗う  
 正月は母の手作り茶碗むし家族みんなで美味しく食べる  
 ナイタイの山に雪の積る見今年も来たり除雪の仕事  
 初雪の降りし後に寒さくる買物帰りの風の冷めたき  
 雪の時期になりても根雪今だなく心配になる温暖化の事  
 脊髓に狭窄ありしを告げられて合点なりき腰痛の元

石米中瀬佐小高松鈴米尾本  
 川森村戸藤松木田木森野間  
 裕博仁洋葵義誠理真よし 栗  
 子樹志明衣美也恵豊弓乃 風



◆ 令和2年も残すところあとわずか。今年の象徴は新型コロナウイルスと鬼滅の刃ではないでしょうか。しかしながら鬼滅の刃はまだ読んだことではなく、世間に後れを取っています…幸い妻が購入したコミック全巻は家にあるので、そろそろ重い腰を上げて流行についていけるようにしなくては…Y

◆ 新型コロナウイルス感染症対策の一環として、消費を喚起するためのプレミアム商品券が発売されました。本年6月にも販売されましたが、前回はプレミアム率25%だったのに対し、今回はなんと30%!これはお買い得です。使用期間も二ヵ月ほどありますので、慌てて使う必要がないのも嬉しいところです。ただし、数量限定のため購入できるかどうか心配なところです。…T

広報 **がみしほろ** 2月号は 1月25日(月) 発行予定

令和2年 11 月末現在の 人口

男性	2,434人 (-6人)
女性	2,524人 (-11人)
人口	4,958人 (-17人)
世帯数	2,591世帯 (-7世帯)

令和2年度ふるさと納税寄付金

11 月分	12,235 件 198,866,000 円
累計	56,169 件 860,984,000 円

※全国より本町に篤志寄付の応援をしていただき心より感謝を申し上げます。

上士幌町民憲章

- 1 心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- 1 おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- 1 きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 1 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましょう。
- 1 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましょう。

令和2年度「上高たより」  
**上士幌高校です!**

No. 33  
 令和2年  
 12月25日

文責：教頭

TITLE:薬物の恐ろしさを学びました

11月11日(水)薬物乱用防止講話を実施しました。今年度は「とかちダルク」の代表をされている宿輪龍英(しゅくわんりゅうへい)様から講話をいただきました。実体験での講話ということで、薬物の恐ろしさ、怖さなど生々しく赤裸々に語っていただきました。安易な気持ちから薬物に手を付け、次第に量も回数も増えてゆき、止めようものにも止められず常習化してしまったと。そして、心も体もボロボロになり、嘘をつくのも平気になってしまい、信頼、信用も失ってしまった・・・何もかも全てを失ってしまった・・・と。今は、ようやく薬物を断ち切り、薬物中毒患者への支援者として活動をしているとのこと。報道でも、芸能人、著名人の薬物使用が取り上げられている昨今、今回の講話で生徒全員が、薬物の危険性は勿論、断る強い心についても学ぶことができたと思えました。



△ケガにも拘らず熱弁してくれた宿輪さん



△身を乗り出して聞く者もいました



△最後は生徒会長がお礼の言葉を述べました

上士幌高校新聞局通信



2年連続でコンクール優秀賞でした!

文責 渡邊 このみ

11月15日(日)に行われた高文連全道新聞研究大会に参加しました。といっても今回はgoogleのzoomを使ったオンラインでの開催です。前半はTVH報道部記者の伊東正剛さんから取材の方法を学び、コンサドーレ札幌のGM三上大勝(ひろかつ)さんを迎えてオンラインでの記者会見で私たちも質問しました。他の支部の局員たちと交流をする大会は自分たちにはない新しい考え方を知れてとても楽しかったです。

なお全道新聞コンクールでは2年連続「優秀賞」をとることができました。出品した新聞は昨年の7月から今年の7月までに発行したもので、先輩方や卒業生は「2年連続取れてうれしい。3年連続でとれるように頑張ってください無理はしないで」と話してくれてとてもうれしかったので、3年連続で優秀賞をとれるように頑張りたいです。

なお全道新聞コンクールでは2年連続「優秀賞」をとることができました。出品した新聞は昨年の7月から今年の7月までに発行したもので、先輩方や卒業生は「2年連続取れてうれしい。3年連続でとれるように頑張ってください無理はしないで」と話してくれてとてもうれしかったので、3年連続で優秀賞をとれるように頑張りたいです。



△タブレットを通しての講演は初めてです



△相手の音声はヘッドフォンで聞きます



△一年間の活動が報われました